



Web Fairy Paradise

2009/9/21 改訂

第15号

今月のフェアリー詰将棋

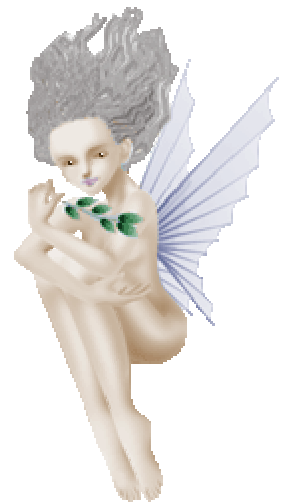
- ・ 第14回WFPフェアリー作品展
- ・ 推理将棋第26回出題
- ・ OFM 第 151 回出題

結果発表

- ・ 第13回WFPフェアリー作品展
- ・ OFM 第 150 回出題
- ・ 推理将棋第25回出題
- ・ JIGSAW BOX#4

読み物

- ・ フェアリー版 迷宮の果てに
- ・ 妖精賞の系譜 (3)



2009/9

はじめに

「東平」

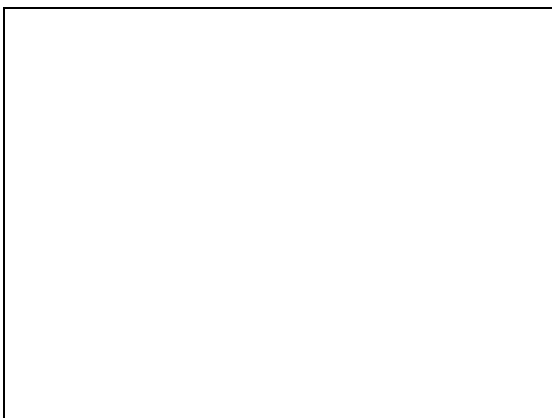
これなんと読むかわかりますか？

読み方は「とうなる」

普通は読めません。これは旧別子銅山内の地名です。そして現在は別子銅山の遺構で写真のような景観なのだが、いろいろ考える人はいるもので「四国のインカ帝国」や「東洋のマチュピチュ」と紹介されて現在観光ブームになっているのだ。大阪の旅行会社が今年7月末からツアー募集したところ、予約見込みより倍以上の申し込みがあり連日大賑わいと云う。

私も数年前に行きましたが、人気のない遺構としか思いませんでしたね。

新居浜市内より車で30分位です。興味ある方はぜひ！



さて今月号は、妖精賞の系譜3、七郎さんから
の寄稿「フェアリー版 迷宮の果て」の読み物のほか、JIGSAW BOX #4の結果稿が注目です。この催しは解説稿執筆期間を長めに取らせて頂いており、小峰氏の力のこもった解説が見所です。また同じ小峰氏担当の第1回フェアリー短編コンクールの募集要項を今月も掲載していますのでどしどし投稿をお願いします。

秋風がさわやかに感じられる今日この頃、解図や創作にはもってこいの季節といえましよう。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。ページが埋まれば私は嬉しい？読者サロンのような感じで送っていただければと思います。

感想

第15号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん： takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

* ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

第 14 回 WFP 作品展 担当 紅月花煉

[作品投稿要項]

- 1) 作品投稿は随時受け付けています
- 2) ルールは不問です。フェアリー系ルールならばかこでも可です(安南詰 etc)
- 3) FM 等で検討済みの場合はその旨を付記して下さい
- 4) FM 等で検討出来ない場合は検討の手伝いをします

[解答要項]

解答締切：平成21年10月15日

本作品展は、正式発表とし TOP IXの対象となります。また解答のコメントは結果発表にて掲載いたしますのでご了承下さい

作品投稿及び解答は

webfairyparadise_you@yahoo.co.jp

をお願いします

余詰・近況報告は

<http://circe-pro.cocolog-nifty.com/blog/>

で行っています。確認の上、解答下さい

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方玉を詰ます

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方玉を詰ます

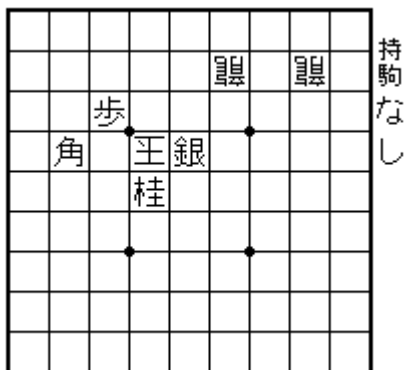
【強欲】

攻方、受方とも、駒取りの手があるときは、駒を取らない手を禁手とする。駒取りの手がなければ、駒を取らない手は有効

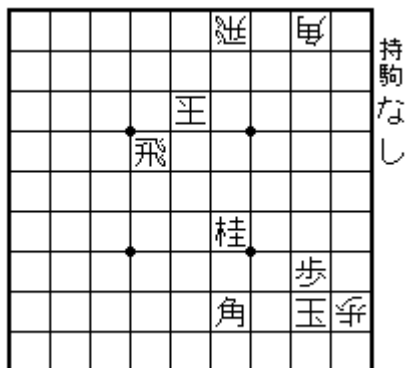
【前節】

今回は3作だけになりました。まだ1作も解いていませんが難しいのは無いかもしれません…

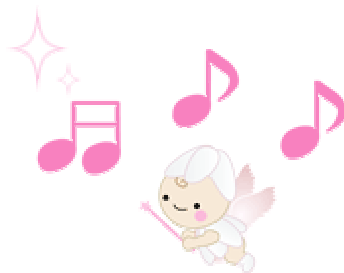
第1番 雲海氏作 協力詰9手



第2番 雲海氏作 協力自玉詰14手



第3番 たくぼん氏作 強欲協力詰77手



推理将棋第26回出題

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第26回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの? - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。

解答、感想はメールで2009年9月20日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第26回解答」でお願いします。

全解答者から抽選で1名に賞品リスト (<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/tenji/shohin.htm>) からどれでも一つご希望のものをプレゼント!

推理将棋第26回出題

担当 タラパパ

先月に続いての特集は、○術師さん作です。

初級はなんとなく既視感もあるのですが、同一条件はないかと・・・。

3問とも試行錯誤型解図が必要な作品ではなく、純粋に論理で解けるはず。

というわけで、出題時のヒントは事実上なしです(^^;

早めに3問とも追加ヒントを出しますので楽しみに。

26-1 初級 ○術師さん作

システム失敗? 9手

大駒を2枚取って2枚打つ。サービス問題なので、はじめはノーヒント。

26-2 中級 ○術師さん作

続・打歩のリクエスト 15手

考えられる詰上がり玉位置はヶ所だけ。論理で追えて手数割に解き易い?

26-3 上級 ○術師さん作

毒入り危険 11手

玉が端に行くのに最低4手。しかも端歩を玉で取れる。詰上がり形の予想がすべて。

追加ヒント (9月10日タラパパ)

初級 大駒を取って打つ順番は、「取る、取る、打つ、打つ」です

中級 後手玉が取る最初の歩は「あの歩」しかありえません。更に一歩取るのですが、さてどちらの歩?

上級 最終手は先手の香の利きを塞ぐ駒が動く手。空き王手?それとも両王手?

26-1 初級 ○術師さん作

システム失敗? 9手

「おかしいなあ、完璧なシステムのはずが9手で詰まされるとは」

「銀が真っ直ぐ動くのも必要な手だし、ツイてなかったね」

「ツイてないと言えば、大駒4枚全部先手の君のもので気分悪いな」

「せつかくもらったので、全部盤上に置いてみたよ」

「おかしいなあ、本家のシステムと何が違ったんだろうなあ」

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 終局時、大駒4枚全てが盤上の先手の駒だった
- ・ 銀が真っ直ぐ動いた

26-2 中級 ○術師さん作

続・打歩のリクエスト 15手

「いやあ、歩を持ってくれたから打歩詰で反則勝ちかと思ってどきどきしたよ」

「気がついてよかったよ。歩を打つ場所と別のところで詰ましたし」

「初手はムリだけど、それ以降王手王手で追われて辛かったわ」

「成る手もなしに王手王手で追って、王手し

た駒は取られなかったからね」

(条件)

- ・ 15 手で詰んだ
- ・ 15 手目は打歩詰の局面だったが、打歩とは別の榊目に着手した
- ・ 初手以外、先手の着手は全て王手で、王手した駒は取られなかった
- ・ 成る手はなかった

- ※ もしも 15 手目に持駒の歩を打った場合、打歩詰ですが二歩ではありません。
- ※ 王手した駒＝王手の時に動かした（又は打った）駒です。

26-3 上級 ○術師さん作

毒入り危険

11 手

「9 手目に突いた端歩は毒まんじゅうでしたか」

「直後に玉でそんなもの取るから、すぐ詰みましたよ、はい 11 手まで」

「3 手目から 6 手目まで同じ筋だったのはこだわりすぎですかねえ」

(条件)

- ・ 11 手で詰んだ
- ・ 9 手目に指した端歩を 10 手目に玉が取った
- ・ 3～6 手目は全て同じ筋の指し手だった

雲海



Onsite Fairy Mate 第 151 回出題

開催日 : 2009 年 9 月 13 日 (日)
 解答締切 : 2009 年 10 月 3 日 (土)
 解答発表 : 2009 年 10 月 4 日 (日)

神無七郎 作

対面協力自玉詰 18手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	王								一
	王								二
									三
									四
	王								五
									六
									七
							王	桂	八
				桂					九

攻方持駒 桂

受方持駒 角5

【ルール説明】

協力自玉詰 (=ばか自殺詰)

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

対面

敵駒と向かい合うと、互いに利きが入れ替わる。

本作の解答を E-mail で管理人宛

(janacek789@ybb.ne.jp) にお送りください。

【本サイトへのメールについて】

解答や感想など、本サイトにメールを送っていただくときに、メールの件名に次の単語のうち一つ以上を入れるようにしてください。

「OFM」(小文字でも可)、「解答」、「感想」、「作品投稿」これらの単語を件名に含むメールが迷惑メール扱いされないよう設定しました。確実にメールが届くよう、ご協力をお願いします。

【コメント】

私の家には今年の3月に引退された中原十六世名人のスポーツタオルがあります。確か職団戦か何かの参加賞として入手したものだと思いますが、それには扇子の揮毫と同様の言葉が入っています。このタオルの場合は「平歩青天」でした。「棋書ミシュラン」の「棋士と扇子」収録揮毫一覧によると、これは「よい天候の道をのびやかに歩む」という意味だそうで、「自然流」と呼ばれた中原名人らしい言葉だと思います。

ところでこの言葉、意図的なものかどうか分かりませんが、将棋の「歩」という漢字が入っています。将棋の駒の入った四字熟語は一体どれだけあるのでしょうか？ 少し興味が湧いたので以下のページで調べてみました。この辞書、「龍」だと何も出てこず「竜」で探す必要があったりして少し不親切なのですが、ネットで利用できる四字熟語辞書としては一番良いものだと思います。

四字熟語 - goo 辞書

(<http://ext.dictionary.goo.ne.jp/idiom/>)

少し意外だったのは「銀」を含む四字熟語が全然出てこなかったこと。逆に「金」を含む言葉はたくさん出てきました。やっぱり世の中「金」が一番!?

ちなみに私のモットーは「毒を食らわば皿まで」。いったん毒入りの料理を口にしたら以上、皿までなめても同じこと。死ぬことに違いはない。本来は悪い意味で用いられる言葉ですが、覚悟を決めて自分の決めた道を邁進する場合にも使われます。詰将棋という毒、フェアリーという毒を食らった自分を表すにはピッタリだと思うのですが、このような意味を持つ将棋の駒の文字が入った四字熟語は残念ながら見つかりませんでした。古将棋の駒まで範囲を広げれば見つかるのでしょうか？

さて、今回の出題は角5枚、桂5枚の詰将棋です。「第31回神無一族の氾濫」のお題である「非標準駒数のフェアリー作品」のサンプルのつもりです。このように標準の駒数とは異なった使用駒数の作品を募集していますので、皆さん奮ってご応募ください。もちろん、本作への解答もよろしくお願いします。

(担当 神無七郎)

第 13 回 WFP 作品展結果 担当 紅月花煉

解答者：5名

全題正解者：雲海氏 神無七郎氏
隅の老人B氏 たくぼん氏

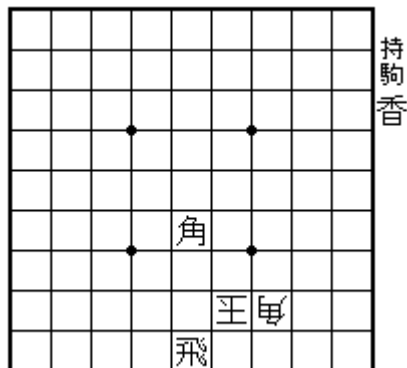
2題正解者：市村道生氏

新規解答として市村道生氏から解答を頂きました。有難うございます。今後も宜しくお願ひします。

今回は久しぶりに解図に取り組みました。解きやすい作品が多い中で第3番第5番には苦戦しました。特に5番の紛れは極悪でした……

【フェアリー】

第1番 雲海氏作 協力詰7手



【作意】

49飛 57玉 59香 58飛 同香 68玉 78飛
迄7手

【作者コメント】

最近、客寄せ用に5手～7手の協力詰の創作に挑んでいるのですが、意外と難しいですね。。。いつの間にか白玉詰になってたりします。。。いろいろありましたが、出来た中の1つがこれです。多分客寄せにはなっているかと…

【コメント】

初手からの紛れが少ないので客寄せに最適の作品だと思います。1筋側に寄せると見せかけて逆に寄せる辺りに味があるかと思ひます

【短評】

市村道生氏：

38角に幻惑されて、目は若番側に惹きつけられました。新天地での黄泉の決闘というところですね

神無七郎氏：

きっと他の人も同じだと思いますが、49香から読みました。開き王手の筋があると読みたくなる解答者の習性を利用した作品。

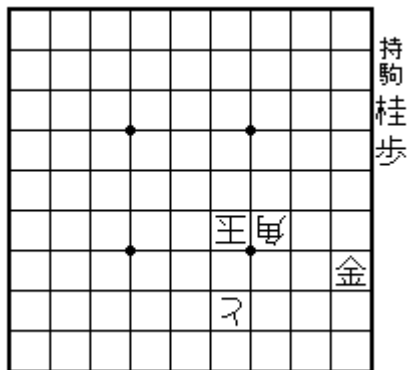
隅の老人B氏：

「これは簡単、易しいね。」雲海作で、この科白が言いたかったが、ホントは、これも苦労した

たくぼん氏：

作者名からもっと意表を付く順かと思つた。簡素で解いてみようという気を起こさせてくれる作品

第2番 たくぼん氏作 安南協力詰9手



【作意】

38桂 37玉 27金 15玉 26歩 24玉 25歩
15玉 26金 迄9手

【作者コメント】

「これしかないという手順ですね。」

【コメント】

全体的に安南っぽい手順は薄い感じの作品だと思ひました。原因はやはりこじんまりとした手順だからでしょうか。金の上に歩という形が途中で出てきてそれが最後にもう一度出てくるのが面白いなあと思つたり

【短評】

市村道生氏：

安南独特の収束で、最後の2手が本局の総て。短手数表現で詰後感は最高

神無七郎氏：

自駒の利きへの焦点打 26 歩が渋い手。ちょっと地味ですが、一見非効率なので指しにくい手です

雲海氏：

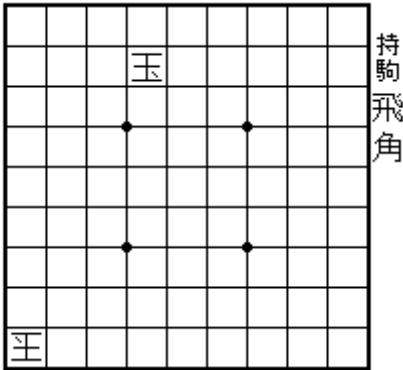
いやはや、

歩が金になって、歩に戻って、再度金になって両王手で詰ますのに面白味を感じました

隅の老人B氏：

安南と言えば、昔、それも遠い遠い昔の映画を思い出す、「七つの顔を持つ男」。ある時は角、ある時は金、そして、その実体は？

第3番雲海氏作Isardam(typeA)協力自玉詰8手



【作意】

29飛 88玉 28飛 81飛 82角 19角 73王
28角生 迄 8手

【作者コメント】

ラスト3手から手順や形を変えて色々と逆算したら、双裸玉になったもの。フェアリーランドが双裸玉特集ですから、それに対抗する気持ちで投稿します

【コメント】

解こうとする迄全く気付かなかったのですが相当な難物かと思えます。玉位置が遠いので遠隔

操作をするしかないのですがそれを一体どのようにするかが問題になります。8手という短い手数なのでルールを利用して先手玉を縛るのですが問題は飛で縛るか角で縛るかです。私自身は飛で縛ろうとして彷徨った末に解けずに撃沈しました。手順の解説は（私には出来ないので）神無七郎氏がしてくれましたので短評にて

【短評】

神無七郎氏：

Isaradam(A)の秘術を駆使したもの凄い手順。実を言うと、この後半の6手は左右反転した形で神無三郎さんから見せてもらったことがあります。（それを今まで思い出せずにいた私の記憶力も情けないですが…）飛び駒で駒を挟んで動きを封じ、更に間に何か挟んで凍結を解除する手筋は Isaradam(A)の花形手筋のひとつになりそうです

隅の老人B氏：

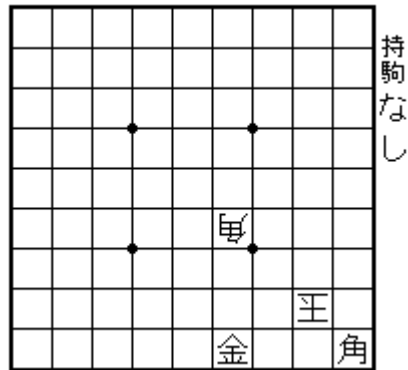
解けて、自慢したくなるのが、雲海作品。最遠打と思ったら、1路ひかえた、憎いねえ妙手のかたまり、雲海さん

たくぼん氏：

飛-飛型は前にあったので角-角型かなと推測。といつつ飛-飛型を先に考えましたねやっぱり。73王が面白い一手

第4番

たくぼん氏作Isardam(typeA)協力詰11手



【作意】

38金 17金 37金 39玉 28角 38玉 17角
48玉 39角 57角生 49金 迄 11手

【作者コメント】

Isardam らしいと言えらしい順だと思います

【コメント】

最初の金の王手に対して金打ちで応じるしかないで最初の5手（2手目以外）は確定すると思います。此処で38玉として角の利きを外しつつ金を獲得するのが巧い手順で、再度39角～57角生で利きを復活させて終焉です。易しいですがルールを最大限生かした作品だと思えます

【短評】

神無七郎氏：

こちらも Isaradam(A) らしさ溢れる手順。特に、角の対面を含みにして金の利きに堂々と入る玉は（ルールがそうなっているとはいえ）まるで普通の駒のように振る舞います。収束3手だけ取り出すと57角を限定打で発生させられるので、この辺が創作の出発点でしょうか

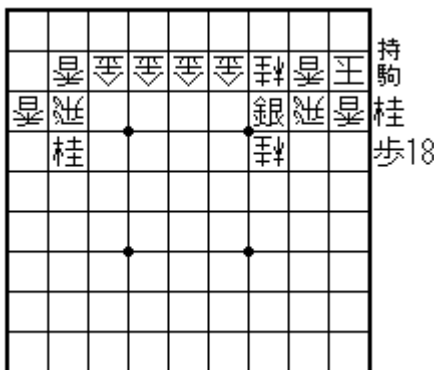
雲海氏：

この Isardam 独特の感覚がとても面白く感じました

隅の老人B氏：

いかにルールで利きを殺す？ 17金打等の手は、業界用語でどう言うのかな

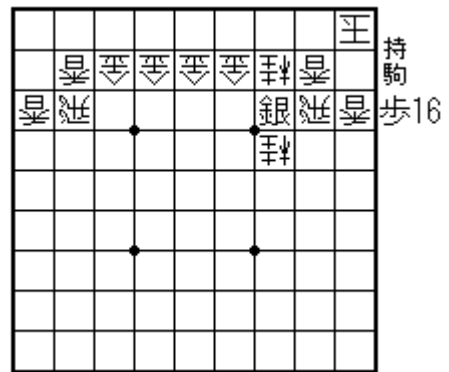
第5番 神無七郎氏作 禁欲協力詰 411手



【作意】

24桂 11玉 12歩 21玉 11歩成 31玉 21と
41玉 31と 51玉 41と 61玉 51と 71玉
61と 81玉 71と 91玉 81と 同玉 92桂成
71玉 81圭 61玉 71圭 51玉 61圭 41玉
51圭 31玉 41圭 21玉 31圭 11玉 21圭
同玉 12桂成 31玉 21圭 41玉 31圭 51玉
41圭 61玉 51圭 71玉 61圭 81玉 71圭
91玉 81圭 92玉 91圭 同玉 92歩 81玉
91歩成 71玉 81と 61玉 71と 51玉 61と
41玉 51と 31玉 41と 21玉 31と 11玉
21と 12玉 11と 同玉

【途中図1】



「12歩 21玉 11歩成 31玉 21と 41玉
31と 51玉 41と 61玉 51と 71玉 61と
81玉 71と 91玉 81と 92玉 91と 同玉
92歩 81玉 91歩成 71玉 81と 61玉 71と
51玉 61と 41玉 51と 31玉 41と 21玉
31と 11玉 21と 12玉 11と 同玉」×8
22銀生 12玉 21銀生 11玉 12香 22玉
32銀成 12玉 22全 同飛 24桂 21玉
12桂成 32玉 22圭 41玉 31飛 迄 411手

【作者コメント】

「禁欲」では定番（というほど作例はありませんが）の持駒消去です。2手目に11玉ではなく21玉とする人がどれだけ出るか…（作者も嵌りました）

【コメント】

禁欲の定番らしい歩の消去が途中図から開始されます。消去後は歩16枚がなくなるので22銀が指せて収束に向かいます

さて、本作品、2手目21玉が凄い畏です。21玉以下、12桂成～92桂成～11圭～同玉として歩18枚を消去した時点で36+360=396手。作意順だと74+320=394手とたった2手しか差がない……20手×9回が作意のように見えるだけに一端嵌るとなかなか抜け出せないと思いますこの21玉解に嵌った人が1名
収束15手が「22銀 12玉 13銀成 11玉……」としているのですが13銀成は11銀成や21銀生という駒を取らない着手が優先されるので指せません

【短評】

雲海氏：

1歩消去するのに約20手要していますね。これ以上長くしようとする、成生の非限定が出てきそうですから、これが最長手順？それにしても持駒の制限枠を取ったら恐ろしい手数になるなあ

隅の老人B氏：

解けて？、ヤレヤレ、手数勘定。413手、どこで間違えた？再度確認、計算は合っている、413手。手順？、調べ直したら、2手目に21王と逃げていた。ほっと一息、今度は解答書き（長手数）で苦勞です。

たくぼん氏：

こんなに簡単に400手越えが出来るとはびっくり。解くのは簡単～～～と言いたいところだけど、2手目21玉以下2手超と収束で時間を食いました。ふう

【総評】

神無七郎氏：

最近雲海氏の作で悩まされたり解けなかったりすることが多く、今回の第3番も予備知識がなかったら危ないところでした。当初は出題数が少ないから楽だろう……などと思っていたのですが、見通しが甘かったです

たくぼん氏：

今月は、割と楽に解けて気分最高～。市村氏の解答参加も楽しみです

開催日 : 2009年 8月 9日(日)
解答締切 : 2009年 9月 5日(土)
解答発表 : 2009年 9月 6日(日)

雲海氏作

協力白玉詰 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				飛					三
									四
				馬					五
							王		六
				馬					七
					継歩	王	歩		八
									九

持駒 なし

【ルール説明】

協力白玉詰 (=ばか自殺詰)

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【手順】

44馬 35桂 56飛成 46飛成 48馬 25玉
47馬 同桂生 65龍 55角
26馬 同龍 まで 12手

雲海 氏作

協力白玉詰 12手(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			龍	馬			王		五
							隼		六
					車				七
						歩	王	歩	八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

主たる狙いは桂合からその桂を不成で跳ねることです。

創るきっかけになったのが、とある自作の余詰筋でして、下図のようなものでした。

95 飛 75 飛 46 歩 44 玉 94 飛 84 角 45 歩 同飛 まで 8手

(参考図)

協力白玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						王			五
				皇					六
							香		七
						王	歩		八
									九

持駒 飛歩

これに何か味付けをしようとして考えた結果が、前々から入れてみたかった桂合→不成で跳ねる手順でした。

そこから様々な紆余曲折を経て今作に至りました。

余詰防止のためだけの駒が無く、初形が比較的綺麗な形になったのは嬉しかったです。

しかし、初形から両王手で詰ますのがわかりやすいと思うので、解答者の方々は意外と悩んでくれないかもしれませんね…。

欲をいえば、最後に残る攻方の龍を消したかったり、18歩を落として、持駒に香を追加して18歩の手を入れたかったのですが、初形の駒数や予想検討時間と相談した結果、諦めました。

【解説】

「解答者の方々は意外と悩んでくれないかも」と作者が予想した本作。

確かに例外的な方々はあまり悩まなかったようですが、大方の解答者にとってはかなりの難解作だったようで、正解者はわずかに3名だけでした。

本作を解く上での重要なポイントは3つあります。

空中に浮いた玉形から両王手の詰上りを想定できるか

39地点を塞ぐため、桂を不成で発生させる手段を想定できるか

玉同士が離れる不利感に惑わされず1.と2.を実現する手順を組み立てられるか

1.は39地点が埋まっていないことで諦める人がいたかもしれません。

2.は合駒で直接39に利かせられない時点で諦めた人がいたかもしれません。

3.は1.2.の不利感を克服すれば大丈夫でしょうが、それでも詰上りにかなり確信がないとそれを実現する適切な手順を探すことは困難だと思います。

雲海氏はWFPや詰パラでも注目すべき作品を次々と発表しており、本作も最近の充実ぶりを示す良い実例のひとつと言えるのではないのでしょうか。作者自身のコメントからも、現状に満足せず更に上を目指す姿勢が見られ、実に頼もしく感じます。

【正解者及びコメント】（正解 3 名：到着順）

橋圭伍さん

詰上りはこれ位しかないので比較的追いやすい作品

全体で見て巧く出来ているのですがどの辺りに狙いがあるのか分かりにくいのが難点かと思います

☆ これは比較的あっさり解いてしまった例外的な感想ですね。

協力系の作品は「変化」が存在しない（紛れのみ）ので、最初に作意を見つけるとどうしても淡白な印象になりがちです。

狙いに関しては作者の言葉にもありますが、

39 地点に利かせる駒を合駒を打つ 1 ステップではなく、「合駒」＋「移動」の 2 ステップで発生させるところが一番の見所だと思います。更に「合駒」＋「移動」のパターンを応用して、「合駒」＋「遮蔽駒の移動」などと発展させるという面白いネタが生まれそうです。ぜひ考えてみてください。

隅の老人 B さん

一瞥、九段目に逃げられたらどうしよう？

さんざん、つついで、ギブアップ。

ある日、突然、47 桂があればと思いつく。

ここから先も長かった。

反省、最初に初手の 44 馬は考えたが、合駒の選択が面倒で、この手を外したのが敗因。

1 2 手、すべて妙手で難しい。

この数ヶ月、あちこちで、雲海さんに苦しめられている。

こんど、雲海さんの名前を見たら、裸足で逃げよう、です。

☆ 私も WFP11 号とか前回の FOF（Fairy of the Forest）で雲海さんの作を解けませんでしたから、この感想は身に沁みて分かります。でも、考えるだけの価値、時間をかけるだけの価値のある作品ばかりなんですよ。今後も雲海さんの作品で大いに苦しみ楽しみたいと思います。

たくぼんさん

初形より両王手の詰上りは見えるので、39 を

どう抑えさせるのかを考えればいづれ 47 桂には行きつくだらうが、それにしても合駒させて馬捨てで桂生とは上手く行き過ぎの手順だ。最近の作者の好調ぶりをひしひしと感じさせられる作品。

☆ たくぼんさんは今回の解答でついに 100 ポイントを達成しました。

詰パラは 100 回入選で同人作家となりますが、それに匹敵する快挙だと思います。

海の向こうではイチローがメジャーリーグ

2000 本安打に王手を掛けていますが、これも 10 年掛かる記録ですから、これになぞらえても良いくらいですね。

結構無謀な作品もある本サイトでの出題ですから、一回や二回は解答をできても、それを長期間継続するのは並大抵のことではありません。棋力と情熱の両方を兼ね備えていなければ達成の不可能な記録です。

そこで今回、この栄誉を称えるため殿堂入り解答者のページを新たに設置しました。

これを期にできれば第 2、第 3 の殿堂入り解答者の出現も期待したいと思います。

もちろん、そこまで出題を続けられるかという問題はありますが、私も「継続は力なり」と言う言葉を糧に行けるころまで行こうと思います。

☆ 実を言うと今回の「コメント」には隠し趣向があります。「可視光」を「かしこ」（普通の詰将棋のこと）に引っ掛けてあるのです。本来隠し趣向を明記するのは無粋なのですが、今回は誰かが気付くのをちょっと期待していたもので…

さて、次回の出題は一週間後の予定ですが、具体的に何を出題するかは決まっています。もし投稿予定の作があったら今がチャンスです。また、近々「第 31 回神無一族の氾濫」の公募の告知をする予定です。こちらもし宜しく願います。

（2009.9.6 七郎）

JIGSAW BOX #04 結果稿

第1番 たくぼん（登場9回） 安南打歩協力詰 17手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									▲なし
									▲なし
									▲なし
									▲なし
			マ	馬	笛				▲なし
		マ			王		金		▲なし
				皇	香				▲なし
	金								▲なし
			歩						▲なし
									▲なし

36金 56玉 46金 67玉 68歩 66玉
67歩 同とA 56金 76玉 66金 同玉B
77金 56玉 67金 同香不成 57歩 迄17手。

【第17手▲5七歩まで】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									▲なし
									▲なし
									▲なし
									▲なし
			マ	馬	笛				▲なし
				王					▲なし
			皇	歩	香				▲なし
									▲なし
									▲なし
									▲なし

作者一指の体操のあぶり出し。桂は置けませんでした。

☆ 今回の投稿作の中ではこれが一番易しそうだし（と言いつつ、初歩的な香不成が見えずに解けなかった解説者が約1名 笑）、しかも曲詰なので、手数昇順配列にして本局をトップバッターに起用しました。

雲海一詰上がりは「エ」かな？トップバッターが曲詰だと嬉しいですね。

隅の老人B—「ロ」かな？、と思ったら、「エ」の出現。右方の金を上手に捨てました。

市村道生—一旦、7筋まで玉を移動させる呼吸がお見事。最後の姿も結構です。

☆ 手順の方は、9～12手目がポイントと言

えるでしょう。作意にみられるように、56の地点で詰ましたいのですが、このままでは46金が邪魔で玉が右辺に戻れません。そこで56金～66金と原型消去を行います（AとBの局面を比べてみましょう！）。

☆ 本局は客寄せには丁度良いのですが、全体的に素直な手順ですし、“安南的な”手も16手目しかない（一応他にもフェアリーメイトなど、いろいろ安南条件が利いてはいるのですが）ので、当然次のような意見も出てくる訳で。

神無七郎—これは愛媛の「エ」でしょうか。「ヒ」「メ」とセットだったら評価も高かったと思いますが、単独だとちょっと物足りないですね。

第2番 雲海（初登場） 協力自玉詰 24手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									▲なし
									▲なし
									▲なし
						角	金		▲なし
					歩	歩	歩	歩	▲なし
									▲なし
					香		桂	王	▲なし
					角	王			▲なし
						金			▲なし
									▲なし

☆ 次は本作品展初登場・雲海さんの超握り詰級の一局……なのですが、原図では35歩が無駄駒だった事が出題後に判明しました。

☆ 本局の出来栄えから言えば些細な問題なのですが、なろうことなら事前に担当者が気付いておくべきでした。

☆ 折角作者が無駄駒なしの修正案を送って下さいましたので、解説はそちらの図で行う事にしましょう。尚、たくぼんさんと神無七郎さんは修正図の方で、市村道生さんと隅の老人Bさんは原図の方のご解答でしたが、勿論どちらでもOKです。

<修正内容>

原図から 配置が24金→36金、35歩→24と。
手数が24手→26手。

第2番 雲海 (初登場) ※修正案
協力自玉詰 26手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									▲なし
									▲なし
									▲なし
							角	と	▲なし
						歩		歩	▲なし
							金		▲なし
						香		桂	▲なし
						角	王		▲なし
							金		▲なし

28金 16玉 17金 同玉 39角 28飛
同角 16玉A 26金 同玉

【第10手△2六同玉まで】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									▲飛
									▲飛
									▲飛
							角	と	▲飛
						歩		歩	▲飛
								王	▲飛
						香		桂	▲飛
							王	角	▲飛
									▲飛

☆ ここまではほぼ一本道。ただ本作を見た目から「密室物」と思い込んで、受方玉を9段目に落として飛で王手して…なんて常識的な事を考えては絶対に解けません。

☆ 尚、原図の作意は、「16玉(A) 26金」の2手が入らないだけです。

11手目以降の手順

96飛! 86桂 同飛 76飛 17角 同玉
29桂 26玉 76飛 66角 同飛 56桂
46飛B 36桂 48角 同桂右成 迄26手。

たくぼん—限定合6回に角桂の打替え入りとは驚異の順ではないだろうか。これが握り詰で出来るとは恐れ入った。

市村道生—収束部で、最下段を狙い過ぎて失敗。96飛を限定にしたお手並みには敬服。

【第26手△4八同桂右成まで】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									▲なし
									▲なし
									▲なし
							角	と	▲なし
						歩		歩	▲なし
						飛	飛	王	▲なし
							香	桂	▲なし
							王		▲なし
								桂	▲なし

神無七郎—ステップ1:「96飛なんて出るわけがない」と他の筋を読む

ステップ2:一向に詰まないで悩む

ステップ3:ヤケ気味に96飛を読む

ステップ4:唾然とする

解図過程を簡単に書くとこんな感じでしょうか。握り詰補正を外しても堂々通用する中編の傑作。

隅の老人B—この一ヶ月、あちらこちらで、雲海さんに悩まされている。最遠打ちから始めて、最後の最後まで上手いものだ。この出来映えなら、きっと何処かで、賞品が貰える。

☆ 手順の流れとしては、

- 1) 12手目86桂合に同飛で桂を入手。
- 2) 15手目17角~29桂の打ち換えで29(=攻方王の退路)を塞ぐ。
- 3) 14手目の合駒で発生した76飛を19手目で取る。
- 4) それに対して20手目66角合(14手目の段階では受方は角が品切れ。飛合と角合のタイミングが巧く限定されている)。これも66同飛で持駒補充。
- 5) 22手目は56桂合。これも同飛…ではなく、46飛(B)と内側から打つのが好手。これによって66飛と56桂の「ピン」の状態が解消された(「アンピン」)ため、56桂が48に成り込む事が可能に。
- 6) 24手目36桂~48同桂右成(詰上図)で詰み。

という感じでしょうか。

作者(原図投稿時)—取柄は飛の最遠打。意味付けは合駒と単純です。金を使用するために序の4手を追加しましたが、必要性を感じ無い序

だなあ。

☆ 序が握り詰条件の影響で不本意だとしても、11手目以降の手順は、盤の幅が9柁より広いと96飛が限定になりませんし、狭いとそもそも手順が成立しません。また、将棋に3枚目の角がもしあったとしたら、合駒の順番が限定出来ません。

☆ つまり本局は日本将棋の条件を活かしてギリギリ成立している訳で、それは佳作である事の証であるように僕には思えます。仮にこれが握り詰でなかったとしても、きっと高評価になったでしょう。

第3番 たくほん(登場10回)
成禁・攻方取禁協力詰 41手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	歩	王	▲なし
						金		歩	
						歩			
						馬			
						王	金		

46馬 26玉 36馬 15玉 16歩 24玉
35馬 33玉 34馬 32玉 43馬 23玉
33馬 14玉 32馬 23金 15歩 13玉A
(ここまで18手)

22馬 24玉 13馬 33玉 22馬 43玉
32馬 34玉 43馬 24玉 34馬 13玉
35馬 24金B 14歩 12玉 13歩生 23玉
34馬 22玉 23馬 11玉 12歩生 迄41手。

作者—取禁は攻方のみ、成禁は攻方受方ともです。成禁なのに馬がいるというのは馬になった後、条件が付加されたので・・・ということ(笑)

☆ この作品をfmで出力させると、ルール名は「攻方取禁成禁～」と表示されます、また、投稿メールでは「攻方取禁・成禁～」となっていたのですが、「攻方」が修飾しているのは「取禁」条件だけだという点を明確にするために、出題時に「成禁・攻方取禁～」と書き換えました。乞うご了解。

【第41手▲1二歩不成まで】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	歩	王	▲なし
						金		歩	
						馬			
						馬	金		

☆ 因みに「成禁なのに馬」の件にはちゃんとこの人からツッコミが。

雲海—ところで成禁というルール下で馬という成駒がありますけど、いいのでしょうかねえ？(笑) まあ成る手を禁止しているだけで、既に成っている駒は問題ないということかもしれませんが。

☆ そういう事にはなるんですが、すると「PWCなのに飛を2枚とも一方が保有してる作品があるのは何故だ」とか、言い出すとキリがないです。フェアリーは常にご都合主義と割り切りましょう(笑)

雲海—詰上がりが11玉での23馬+12歩のほぼ一つしかなく、そのためには22の金を24へ移動させる必要がある、そのためには…、といったように、易しいですが論理的に解ける良質なパズルだと思います。個人的には好みで楽しく解けました。

隅の老人B—取れない、成れない、こんなの詰むわけない。さんざん悩んで、ルールを再読。王方は駒が取れるのだから。33歩が無ければ、11で詰む、これは研究済みでした。

市村道生—22金の移動の方法に妙味あり。ルール名から33歩消去のヒントを得ました。

☆ 序盤で33歩を消去(この歩があると、馬の可動範囲が狭くなって不都合)した後、22金を移動合で23に移し、歩を5段目まで突き出したのが18手目13玉(A)の局面(次頁)。

☆ ここで調子に乗って14歩とやってしまうと窮屈になって失敗します。

☆ 作意では、32馬を35へと馬の大移動するために(そうすれば24金と再び移動合が出来る)、ここから玉が13→24→33→43→34→24→13と大回転します。

【第18手△1三玉まで】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						歩	歩			▲なし
					皇	馬				▲なし
							香	王		▲なし
					香					▲なし
					馬		歩			▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし

【第32手△2四金まで】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						歩	歩			▲なし
					皇				王	▲なし
					香		香			▲なし
					馬	馬	歩			▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし

☆ 守備金を24まで上ずらせば（B）、だいぶ右上の空間が広々としたので、14歩以下玉を11へ追い込んで行って詰みますね。

☆ おそらく次に掲げる七郎さんの評も、A～Bの手順を指しているのだと思われます。

神無七郎—1筋から4筋に移って、また1筋に戻る中盤の手順が良い感じ。もう少し頑張って歩を9段目から持って来るのは無理かなあ？

☆ 確かに歩を19から始められればもっと面白そうです。握り詰条件でどこまでやれるのか僕には判断が付きませんが。

☆ 昨年のJIGSAW BOXでは、たくぼんさんの取禁協力詰が話題を呼びましたが、今回の作品も「取りにまつわるフェアリー条件」を利用した面白いパズルだと思います。

☆ ところで、たくぼんさんの本作品展登場回数が2桁到達！ #01からの皆勤作者は神無七郎さんとたくぼんさんの2人だけですが、特にたくぼんさんは#02以外毎回複数作登場しています。来年以降も宜しく願いますm(_ _)m

第4番 神無七郎（登場4回）
最悪詰 45手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし
					歩		歩	金		▲なし
								歩	歩	▲なし
						角				▲なし
						金	角		桂	▲なし
							王		香	▲なし
										▲なし

69金 48玉 59金 37玉

【第4手△3七玉まで】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										▲なし
										▲なし
										▲なし
										▲なし
					歩		歩	金		▲なし
								歩	歩	▲なし
						角		王		▲なし
							角		桂	▲なし
						金			香	▲なし
										▲なし

☆ 今回随一の難解作！ ここからの数手がやたらと変化紛れが多く、しかも真のテーマはその先にあるという構成なので、解くのは相当大変だったと思います。

5～10手目の手順

48金A 27玉 37金 同玉 46桂B 38飛イ

【変化】

5手目（A）で、

a. 46桂は27玉 49角 38歩 同角 28玉 29歩 39玉 49金 迄早詰。

b. 26桂は28玉 29歩 同玉 47角（56角） 38歩 同角 28玉 29歩 39玉 49金迄早詰。

9手目（B）で、

c. 26桂は38香 同香 48玉 49香 38玉

47角（56角は47香 同角 37玉以下） 27玉

38角（28歩は18玉 29角 同玉 56角 38金

同角 39 玉 29 金迄) 同玉 56 角 47 香
 同角 37 玉 39 香 38 歩 同香 28 玉 29 歩
 同玉 37 香 38 金 同角 39 玉 29 金迄早詰。

【紛れ】

10手目 (イ) で、

(1) 27 玉は49角以下不詰。(変化a. と異なり59金不在につき、最後39玉に49金と出来ない。)

(2) 38 香は同香 48 玉 49 香 38 玉 56 角 47 香 同角 37 玉 38 香以下不詰。(変化c. と比べ攻方の持ち歩が少ないので、37玉に38香と短打された際、28玉に29歩と打つ歩が無い)

【第10手△3八飛まで】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲なし
									二
									三
									四
		歩			歩	金			五
					桂	歩	争		六
			角			王			七
				角		延			八
						香			九

☆ この10手目飛合が解答者にとっては最後の難関だった筈。

☆ 普通最悪詰は攻方の手が広がると、制御不能になって詰まないとしたものですが、こんなに盤面がスカスカしてる局面で飛なんか渡しちゃって大丈夫なんではしょうか？

11手目以降の手順

38同香 46 玉ロ 47 飛C 55 玉 57 飛 66 玉 56 飛D 77 玉 76 飛 68 玉 78 飛 59 玉 79 飛 48 玉 49 飛 57 玉 47 飛 66 玉 46 飛 56 歩 (ここまでで30手)
 56同飛E 77 玉 76 飛 68 玉 78 飛F 59 玉 79 飛 48 玉 49 飛 57 玉 47 飛 68 玉 69 歩 59 玉 49 飛 迄45手。

【変化】

13手目47飛 (C) で、48飛または49飛は57玉 47飛以下作意27手目に短絡。また66飛は56合同飛迄の詰み。

35手目78飛 (F) で69歩とすると、57玉 56 飛 48玉 46 飛 59 玉 49 飛 迄早詰。

【紛れ】

12手目46玉 (ロ) で48玉は47飛以下不詰。(作意と逆の回転になると詰まない)

【第30手△5六歩まで】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲なし
									二
									三
									四
			歩			歩	金		五
				王	争	飛	歩	争	六
				角					七
					角		香		八
									九

☆ 13手目で攻方は8箇所飛を打つ事が出来ますが、横から打つと56に合駒されて文字通り「即詰み」ですし、縦から打つにしても、離し打ちだと作意より早く歩合をされてしまって早詰です。

☆ 飛という駒は強力なようですが、隣接する8枞に関してはたった4枞にしか利いてないので、接近戦になると意外に玉や金より融通の気かない駒です(余談ですが、指将棋の対早石田で棒金戦法が通用するのも、接近戦では力関係が金>飛だからです)。

☆ 13手目で案外飛の打ち場所がなかった攻方は、この後変化の余地は殆どありません。

☆ ここで本作の真のテーマである、攻方に一步渡すための飛の回転趣向が始まります。DとEの局面を見比べると、丁度攻方の持ち歩1枚違いになっていますね。

☆ それでは作者と正解者のコメントを到着順に見て行きましょう。

作者—後半の飛回転がメインなので、序で無理やり飛合を出しました。ついでに還元玉まで逆算。9手目の変化が難しいので、ここの読み切り(あるいは変化飛ばし)が解図の鍵だと思います。

☆ 結果的にかなり難解になっていますので、飛合を入れたのは諸刃の剣という側面もあるような気はしますが、無意味な難解性を求めての逆算ではなく、あくまでテーマを引き立たせるための逆算と思われるので、仕方のない所でしょうか。

【第45手▲4九飛まで】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
		歩			歩	金			五
						歩	卒		六
			角						七
				角		香			八
			歩	王	飛				九

▲なし

たくぼん—第1感は、8手目より28玉、27金、29玉、28金、39玉、29金、48玉、39金、59玉、49金、68玉、59金、79玉・・・の順。かなり考えたがどうも上手くいかない。次は8手目同玉として46桂に27玉の順や、38歩や38香の順。これも上手くいかない。かなり考えた後に58角67角の形から飛合が思いつく。この飛合にはびっくり！最悪詰で飛合って初めてではないだろうか？攻方の手が広がるので不利合駒とでも言おうか・・・飛合以降はいっしょに進んだがこの飛合は久しぶりに感動した1手でした。

☆ 最悪詰の飛合自体は幾つか前例があって、有名な所では北村太路作（詰パラ08・6、44手）で収束に飛合が登場しますし、他にも双玉作品において「逆王手するための飛合」が登場したケースもあります。

☆ ただ、合駒で入手した飛が後半の趣向の核になるというのは初めてかも知れません。

雲海—詰まないあと悩んでいたら、たくぼんさんのブログで予想外の手があった、と書いてあるのを見て、強い駒でも攻方に渡すのかと思い、試しに飛合をしたら趣向手順が出て来て、そのまま詰んでしまった、と運良く(?)解けました。改めて鑑賞したのですが、飛合をし、その飛を使用した趣向的な手順が出て来て、最後は還元玉で詰み、という相変わらず見事な構成ですね。

☆ 作者以外で還元玉に言及があったのは雲海さん唯一人でした。

隅の老人B—飛追い趣向だが、普通の詰将棋よりは、遙かに難しい。慣れもあるのだろうが、詰むように、詰まないようにで、こんがらが。これしかない、こんな思いこみも、解くの必要かな。

☆ 流石闇雲流。僕などは若いのに疲れるとす

ぐ頭休めのバックギャモンに興じているような有様で…。お互い廃人にならんように気を付けましょう。 >紅月さん

～～～総評など～～～

市村道生—今回の出題作品は4局ですが、さすがに高品質の作品が揃っています。しかし第4番七郎氏作の最悪詰ですが、ルールの細部解釈が不明な点もあり無解答で、折角の好作の鑑賞が出来ず、大変残念に思っている処です。結果稿を拝見して勉強致したい所存です。

☆ わかるように解説を書けてるでしょうか。

雲海—作家数3、作品数4は寂しいですねえ。駒の種類が厳しかったのか、はたまた仕事などが忙しくて創る暇がなかったのか……。小峰さんは創らなかったのですか？

☆ 出来ませんでした。ここ1年殆ど作図してなかったせいか、アイデアが浮かばず…。

たくぼん—自作の評価は分かりませんが、他の2作は傑作と言ってもいい内容の作品。握り詰作品展とは思えない充実度と思います。

☆ 今回の一番乗り解答はたくぼんさんでした。同じ日に七郎さんから解答メールが届きましたが、僅差で先着。

神無七郎—都合で解答作業への着手が遅れてしまったのですが、第2番雲海作に吃驚。

Onsite Fairy Mate 第150回出題のコメントに急遽その宣伝文句を入れました。まだ Fairy of the Forest は解いていないのですが、こちらも期待が持てそうです。

☆ 宣伝有り難うございます。こちらは現時点でまだOFM#150が解けてないのですが（一応考えてはいる）、どうなりますやら。

隅の老人B—たぶん、私が最終？解答者でしょう。締め切りの2時間前によく、です。この暑いのに、頑張った？、全題正解だと嬉しいな。

☆ 勿論ラスト解答&全解です。

☆ 皆様、また来年お会いしましょう！

～～～解答成績～～～

【4題全解】（4名）

たくぼん 神無七郎 雲海 隅の老人B

【3題】（1名） 市村道生

担当・小峰耕希

詰将棋メモ

推理将棋第 25 回出題解答

担当 タラパパ

出題日 : 2009年 8月 4日

解答締切 : 2009年 8月 20日

25-1 初級 ミニベロさん作 端に打った駒(看護) 10手

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 後手は「6手目に不成で取った駒」を端に打った
- ・ 終局時先手に持ち駒あり

出題のことば (担当 タラパパ)

先手は持駒を自陣で取ったようです。後手は何枚の駒を取る必要がある？

追加ヒント：

8段目に駒を打ちました。

推理将棋第 25 回解説 担当 タラパパ

推理将棋も10手あると、かなりの紛れが出てきます。その分、余詰リスクも増え、今月の出題は中・上級2問が余詰で途中修正になりました。まことに申し訳ありませんでした。雑誌と違って、そこで出題訂正ができるのが「おもちゃ箱」の利点ですが(^)

さて、ミニベロさんには、いくつかのシリーズ出題があり、伊藤三兄弟もその一つ。キーワードを統一した条件を揃えて、コミカルタッチを演出します。ただ、担当者・作者が予想したよりも相当難しかったのが大誤算で、解答者減に。

推理将棋 25-1 解答

▲7六歩、▽3四歩、▲7七桂、▽同角不成、▲6八飛、▽同角不成、▲同銀、▽1八飛、▲4六歩、▽4七桂 まで10手で詰み

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	科	銀	金	王	金	銀	科	香	
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩			歩				
七	歩	歩		歩	歩	科	歩	歩	歩	
八		角		銀					銀	
九	香			金	王	金	銀	桂	香	

持駒 角

先手が自陣で持ち駒を得たとは考えづらく、ヒントがなければ相当な難問だったと思います。

端に駒を打つのですから、先手の駒を取った後手の駒(たとえば角)と、端に打った駒の2枚を連携して詰ませるような順を想定しがち。しかし、こうした順ではどうしても「終局時先手に持ち駒あり」の条件を満たすことができません。なかなか発想にくいのですが、先手はなんと、自陣で駒を取ったのです。ではいつ何処で？

6手目に端に打った駒を先手が取る筋書きがまずないとすれば、後手が取ったのは動いた後手の角。端に駒を打って単騎詰ということもありませんから、後手の8手目、10手目はどちらも駒を打つ手でなければ無理。従って2枚の駒を取らねばなりません。

渡辺 「最後の3手、68銀の存在だけで限定されているのが巧い。これはヒントがなければ33角成や44角で後手の飛を活躍させる順ばかりを考えてはまっているところでした。」

■18飛、47桂の詰み形には、68同銀と取るしか

ないというのがいいですね。

はらたつと 「第一感が「先手駒取りがなければ96桂から88角成」だったので角となにか

(香、桂、銀)をとって78のあたりで詰ませる手順ばかり追いかけてました。トホホ。8段目という追加ヒントで、飛車を端に打って居玉に桂か!とひらめきました。タラパパさんGood Jobでした。」

■今回、初めて追加ヒントを設けてみましたが、Good Jobと言っていただけで嬉しくなります。

リーグ戦ファン 「後手角が2枚駒を取り、角は取られるが、持駒2枚で詰ませる、というのが第一感で、その場合は取る駒が歩では役に立たないので「桂角」・「角銀」・「角香」等を考えて捨て、となれば、後手角と6手目を取る駒との協力で詰ますしかない。両王手まで、の妄想にはまり、身動きがとれなくなり一週間以上。そうかあ、「桂飛」で吊るし桂まで、ですか。完全にやられました。」

■第一感は正しかったのですから、その時に「飛・桂」も視野に入っていたら早かったのでしょうか。なるほど、両王手を考えられていましたか。

たくぼん 「両王手の筋ばかり考えていました。解けると余りにきれいな順で感激です。」

■たくぼんさんも両王手でしたか。すると「終局時先手に持ち駒あり」に苦労された?

竹野龍騎 「桂打は47と67と両方あるからなあ、深く考えずに除外してしまい苦戦。」

■納得の思考回路。たしかにこの条件をさっと見ると、47、67が限定しそうにありませんものね。

奥野眞 「最初は、68玉～78玉と端に近づいて行く手順を考えましたが、「終局時先手に持ち駒あり」の条件が厳しくてダメとわかり、その後、居玉のまま、飛車・桂で詰む手順に気づきました。」

■初解答ありがとうございます。ポイントは、「終局時先手に持ち駒あり」をどうクリアするかでした。

S. Kimura 「冒頭のヒントから桂馬と飛車を取る順に気付き、1八飛が発見できました。」

■ヒントが少しでも役に立つと嬉しいものです(^_^)

○術師 「先手が後手に取らせる駒は飛角だと決め打ちしてしまったので、中々別の発想に移れませんでした。試しに桂を取らせてみたら、夢の?桂つるしまで一直線でした。無駄手がない良い感じの手順をうまく限定していると思います。」

■決めうちがハマると一発なのですが、外れた時の苦労はたいへん(^_^);

けんちゃん 「46歩はまさにココセ。68での駒交換の後、たった3手で詰むとはねえ…。」

■推理将棋はココセの集合体ですから、ココセ度が高いほど面白い? (笑)

はてるま 「攻防攻駒に残しておきたい角を取らせるのは、手がかりがなくなりそうに見えるのでちょっとした盲点になりました。飛桂のコンビネーションでぴったり詰むのが爽快です。」

■角を取らせる意外性。盲点を突くとはこういうことでしょうか。

魚熊 「とどめの駒に思い至るまでが大変でした。」

■逆に言えば、桂がとどめだと思ひ至りさえすれば、一瞬ということでしょうか。

正解：11名

魚熊さん S. Kimuraさん 奥野眞さん

けんちゃんさん たくぼんさん 竹野龍騎さん

はてるまさん はらたつとさん ○術師さん

リーグ戦ファンさん 渡辺さん

25-2 中級 ミニペロさん作

端から動いた駒 (看板) 10手

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 8手目(終了)の局面で端にいた駒が動いて、「歩を取って成って」初王手で詰ませた
- ・ 着手された駒は、先手3枚・後手2枚

※ 初王手で詰みですから、先手からの王手はありません。

※ 1枚の駒を先手後手が使い回しした場合は、それぞれに1枚ずつ使ったとしてください。

出題のこぼ (担当 タラパパ)

端から動いたのはもちろん大駒。後手があと1枚だけ使った駒とは？

追加ヒント：

4段目から成ったようですよ。

推理将棋 25-2 解答 担当 タラパパ

- ▲ 7六歩、▽ 4四歩、▲ 5五角、▽ 4五歩、▲ 4六角、▽ 同歩、▲ 4八玉、▽ 1四角、▲ 3八玉、▽ 4七角成 まで10手で詰み

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二		飛						馬		
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	
四										
五										
六			歩			歩				
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八							王	飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 なし

当初の条件は、2番目が単に「端にいた駒が動いて初王手」でした。

端にいた駒が動いた角なら14歩～13角～57角成しかない。すると、あと2手でもう一枚の駒を57に利かせなければならず、それはあり得ない。とまあ、作者も担当者もこんな読みだったのですが、そこに指摘された渡辺さんの余詰は、34歩～44角～17角と3手もかけて端に動かし、35角成と詰ませるもの。角が動いたら14歩～13角～57角成しかないと決め打った論理自体に破綻がありました。

修正された条件、「歩を取って成って」といえば7段目への成。34歩と突く筋では、こんどこそ届きません。また端から歩を取って成ることのできる駒といえば、10手という短い手数では角以外に考えられません。すると端から動いたのは「端に打った角」で、もう一枚動いた後手の駒は角を取った駒。

残る一枚、可能性のある駒は飛車と歩だけなのですが作意は歩。先手の角が2手かけて後手の歩頭に赴く動きがどこかユーモラスです。ちなみに初王手を外すと、飛車を使う別手段を生じます。

55角～46角はたいへん好評でした。

渡辺 「まるで、かずひでさんの「76に『先手の歩』以外の駒がある」手順のようですが、10手にするとうこういうアレンジが出来るんですね。巧いと思いました。実は条件から馬単騎ばかり考えて、角(馬)が9筋方面ばかりに行つて、はまっていました。」

■かずひでさんの一手角を二手角にしただけのことでしたが、さすが渡辺さん、すぐ気付かれましたか。この「二手角にしただけ」が絶妙のアイデアでした。

○術師 「後手の使用する駒を自陣の飛角と仮定すると、▲33角成を王手にしないためには2手目△42飛→4手目△33同角となり、手数が足りなくなりました。また、後手が動かした駒を先手に取られる順は、残りの動かせる駒が1枚だけとなるため無理があります。先手が後手に

角を渡す場所・・・と考えているうちに、歩を使うことによりやく気がつきました。」

■本作の原案ともいうべき、かずひでさんの9手作品もそうですが、推理将棋は早く敵玉に到達させる意識が強く働くため、こうして牛歩のようにノロノロと進む歩はどうしても盲点になります。

はらたつ 「渡辺さんの余詰指摘により加えられた条件「歩を取って成って」により、候補手順がかなり限定（というか14角から4筋成しか選択肢がないように私には思えます。）されました。」

■飛車を使う筋でも14角ですし、他にほぼ選択肢はないと思います。

リーグ戦ファン 「端にいた駒が歩を取って詰み上がりとなれば、47角成までが本線で、この問題は分殺でした。47をサポートする駒の第一感は▽42飛ですが、初王手・後手2枚という条件に阻まれる。この「惜しすぎる」紛れはかなり好みです。」

■面白い紛れですよ。これを作品化する場合は、遊びの一手をどう使うかですが。

たくぼん 「94角から67角成の筋がパッと浮かびこの呪縛からなかなか逃れられませんでした。55角～46角が上手すぎる順」

■なるほど、目を付けたのは6筋でしたか。堂々巡りお疲れ様でした。

竹野龍騎 「角と歩かなあと思っても、この角の取らせ方は見え難かった。」

■角が出て戻る、この折り返す動きが見えないんですよ。

奥野眞 「4段目から成った、という追加ヒントをもらって、ようやく解けました。先手の角の動きがユニーク。」

■本局は先手の角の動きが全て。追加ヒントを出しても、なかなか気付きにくい動きだったと思います

S. Kimura 「後手が2枚しか動けないので、77歩、42飛、33角成を考えて悩んでいました。角を2回も動かして、4筋の歩で取らせるとは、思いも浮かびませんでした。」

■後手に一手パスが許されるのなら、おっしゃる手順が組めるのに何か指さねばならない。そんなところが愉快です。

はてるま 「13角から57角成を当然まず考えて苦戦。その一路上でしたか。先手角をわざわざ46まで持っていく発想が面白いです。」

■「何とか間に合ってくれた」46角は、そんな手でした。

魚熊 「46で角を取らせる手順で手数が合うとは、すぐには思いつきませんでした。」

■と金の遅早という格言がありますが、さしずめ歩の遅早といったところですね。

正解：10名

魚熊さん S. Kimuraさん 奥野眞さん
たくぼんさん 竹野龍騎さん はてるまさん
はらたつとさん ○術師さん
リーグ戦ファンさん 渡辺さん

余詰指摘（修正前）：渡辺さん

25-3 上級 ミニベロさん作

端に成った駒（看守） 10手

（条件）

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 端に駒が成った直後に歩が成った
- ・ 初手は5筋
- ・ 6筋の手があった

出題のことば（担当 タラパパ）

端に駒が成ったのは9手目。最後の歩成は動

いた歩？打った歩？

追加ヒント：

9手目、3段目から自陣に駒を成りました。

推理将棋 25 - 3 解答 担当 タラパパ

▲5八玉、▽3四歩、▲9六歩、▽7七角不成、▲9七角、▽6八角不成、▲5三角不成、▽5六歩、▲9七角成、▽5七歩成 まで10手で詰み

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	一
		飛							二
歩	歩	歩	歩		歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
歩									六
馬	歩		歩	又	歩	歩	歩	歩	七
			王				飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

こちらもヒントがなければ途方に暮れそうな難問。果たして端に成ったのは先手なのか後手なのか。

動いた歩が成るには最低でも4手。成ったという歩は、自陣から動いて成ったものか、どこかで歩を打って成ったものか。

作意は77で取った歩を56に打って57歩成の筋。そのために先手が5筋の歩を切って協力する。解けてみれば納得の手順でしたが、端の駒成り＝自陣がかなり盲点だったようです。

渡辺 「分ってしまえば何てことのない手順。飛が動かないのが意外。なあ～んだ、そうだったのか。それが推理将棋と言うもの。最初から97角成、57歩成の筋は読んでいたのですが、59が埋められなくて諦めていました。それが今回

やっぱり最終歩成と歩は打つ可能性もあると言う大ヒントのおかげで読み直すことが出来ました。しかし最初に見付かったのは余詰の方（最初は、飛車+歩突きを考えていたので）でした。」

■いつの日にも解ければなんてことのない手順が推理将棋。

リーグ戦ファン 「▽68角不成+▽57歩成まではかなり早い段階で候補だったのですが。その場合は端の駒成が▲91角成だと思い込んでいたために、時間がかかりました。駒成条件を示しておいて、自陣成というさらに限定的な手が隠れている、というのは、ミニベロさんらしい美しさ。作者名から考えればもっと早くに気付いて良かったところです。」

■なあるほど、駒成＝敵陣への成り。それが一つの盲点になるのか！ 今ごろ気付きました（^；

たくぼん 「ヒントがなければ解けなかったでしょう。角成が自陣に成る手とは思わなかった。そこからでも52飛の順は分かったのに68角生がなかなか気付かないとは・・・」

■端からの駒成が自陣というのが、相当意外な手なのですね。担当者、ぜんぜん分かっています（汗）

はらたっと 「初手5筋だから56歩から9手目は13角成しかないという思い込み。ということは後手は飛車を回って歩を突いて成るのか？これしか頭が回らず・・・まったく詰まない。追加ヒント3段目からの自陣成りで53から97角の動きが見え、53歩を取ってもらうのであれば後手は77の歩をとればいいということで、またまたタラパパさんGJ。ちなみに渡辺さんの余詰指摘は77角のまま52飛と回る手順ですね。こちらが先にみえたので修正条件「6筋の手があった」の意味がわかりました。（追加ヒントなしで余詰指摘できる渡辺さん改めてスゴイ！）」

■皆さん、52飛と回る筋が先に見えるのに、なぜ見落とすかなあ～？と反省しております（大汗）

奥野眞 「角が盤上を飛び交う空中戦。ヒントがなかったら、多分解けませんでした。「6筋の手があった」の条件は、6手目52飛でも詰む余詰の対策ですね。」

■おっしゃる通りでした。

S. Kimura 「追加ヒントから、ようやく先手の指し手の見当が付きました。53の歩が消えるので、52飛を考えていましたが、冒頭のヒントに「打った歩？」とあることを思い出し、どうにか正解手順にたどり着きました。」

■本当はダイレクトに「打った歩」とヒントを出したかったのですが、それではあんまりかなあ？と(^_^)；

はてるま 「自陣に駒が成る意外性と56歩の意外性。二重に裏をかかれた感じです。難問でした。」

■実は今月の3局、すべて中級として投稿されたものを、ヒントにより初級～上級にわけました。どれが一番難問なのかも悩んだのですが、どうやら難易度だけは合っていたようです。

正解：9名

魚熊さん S. Kimuraさん 奥野眞さん
たくぼんさん はてるまさん はらたつとさん
○術師さん リーグ戦ファンさん 渡辺さん

余詰指摘（修正前）：渡辺さん

総評

はらたつと 「追加ヒント！いいですね。さすがに初回ということもあり、分かり易いヒントだったと思います。というか、追加ヒントのおかげで残り全部解けました。タラパパさん、これからも追加ヒントお願いします（笑）上級者の方は15日より前に解答すればいいだけですからね。」

■はい、好評でしたので今後も続けます。

奥野眞 「はじめまして、奥野と申します。友人の紹介でおもちゃ箱の推理将棋コーナーを知り、今回初めて解答します。」

■奥野さん、パラではよく存じているのですが、こちらにも参加してくださって、ありがとうございます。今後もよろしくお祈いします。

S. Kimura 「25-1は自力で解けましたが、残り2つはヒントがなければとても無理でした。次回以降も追加ヒントをお願いします。」

■もちろんです。次回は更に大きなヒント？

○術師 「解き終えてみると、軽い形に必然が詰まっていた良い解後感でした。推理将棋に関しては、問題は投稿しているものの、過去2ヶ月の解答が1問ずつと低調で、解く方の難しさを実感しています。易しい問題が求められている理由もよく分かる気がしています。」

■私も最近、めっきり解けなくなって（汗）。次回は○術師さん特集を予定しますので、よろしくお祈いします。

推理将棋第25回出題全解答者： 11名

魚熊さん S. Kimuraさん 奥野眞さん
けんちゃんさん たくぼんさん 竹野龍騎さん
はてるまさん はらたつとさん ○術師さん
リーグ戦ファンさん 渡辺さん

当選： リーグ戦ファンさん

「迷宮の果てに」

神無七郎

詰パラに連載されている吉村達也氏の「迷宮の果てに」。その記事の中でこんな問い掛けがありました。

【問い】あなたならどちらを選びますか？

図1

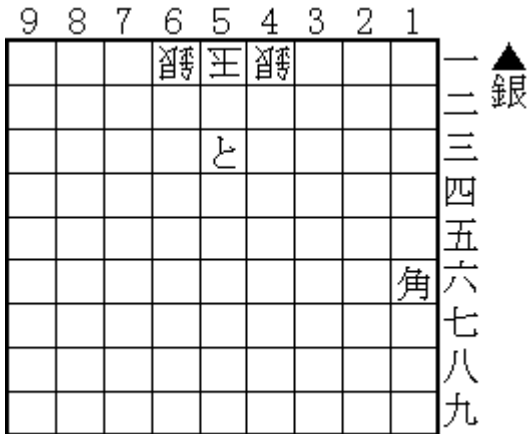
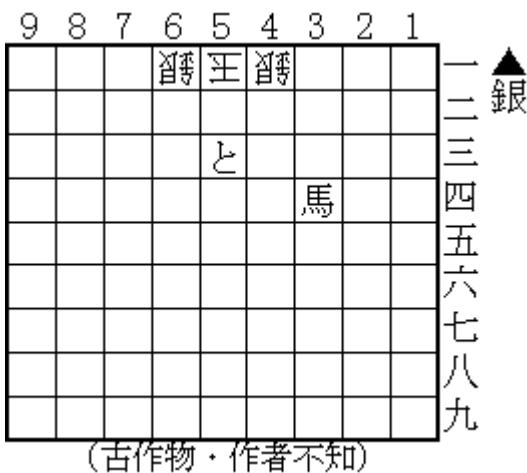


図2



私なら図1を選びます。この図を棋友に見せたら、彼をうまく担ぐことができるかもしれないからです。もし、相手が即座に解いて「何だこれは」と文句を付けたら、こう言いましょう。ボクはこれが普通の詰将棋だとは一言も言わなかったよ、と。ここで図1が協力詰（ばか詰）であることを明かします。そして、少しでも相手が真面目に考えてくれたらこのイタズラは成功です。

そう、図1は普通の詰将棋でも協力詰でも同じ手順なのです。

普通の詰将棋でも協力詰でも同じ手順が正解となる詰将棋は、実は結構あります。変化も紛れもない「一本道詰将棋」はその分かり易い実例で、最長のものは何と43手。これは凄いですね。

★一本道詰将棋の最長手順作



ただ、図1の例にもあるように多少の紛れがあっても、普通の詰将棋と協力詰の両方のルールで同一の解が正解となる図は存在します。そこで設問。

問1.

普通の詰将棋と協力詰の両方のルールで同一の解が正解となる最長手数 of 図を示せ。

(一本道詰将棋のマイナーチェンジでも良い)

問2.

普通の詰将棋と協力詰の両方のルールで同一の解が正解となる最長手数 of 図を示せ。

ただし、すべての攻方の着手に正解以外の紛れがあること。

問1は43手以上が確定していますが、果たして上限は何手でしょうか？

問2も図1があるので3手以上が確定（ただし、左右対称形からの左右対称解は同一視します）。でも、長手数は難しそうです。

というわけで、興味のある方はこれらの設問に挑戦してみてください。

妖精賞の系譜 (3)

前回に続き、今月は第4回～5回の妖精賞受賞の作品を紹介していきたいと思います。選考は第1回～4回までが読者投票によるもので第5回以降は担当者の独断で決定となっています。

第6回 妖精賞 (1993年)

この期も担当者の菊田裕司氏の選考で受賞作が決まりました。

【担当者のコメント】

短編は今一つ「新しさ」を感じさせる作品がありませんでした。中編は他には11月号の上田氏の自殺詰30手、12月号左氏作が印象に残りました。前者は長編賞の橋本作と合わせて、かしこ自殺詰復権の起爆剤となってくれたらいいと思います。(菊田)

【短編部門】

該当作なし

【中編部門】

詰将棋パラダイス 1993年5月号
岩本修 作 安南ばか自殺詰 44手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	王								一
									二
									三
									四
									五
									六
								王	七
									八
							銀		九

持駒 銀2

92 銀 72 玉 83 銀打 73 玉
82 歩生 63 玉 74 銀生 72 玉
83 銀引生 62 玉 73 歩生 71 玉
72 銀生 61 玉 64 歩生 62 玉

63 銀引生 53 玉 65 銀 52 玉
55 歩 53 玉 54 銀引生 44 玉
56 銀 43 玉 46 歩 44 玉
45 銀引 35 玉 47 銀 34 玉
37 歩 35 玉 36 銀引 26 玉
38 銀引 25 玉 28 歩 26 玉
27 銀上 36 玉 19 歩 27 玉 まで 44手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							王		六
								王	七
									八
							銀	歩	九

持駒 なし

受賞理由 (菊田裕司)

フェアリーらしい斬新さと、高い完成度を備えた傑作。

解説 (菊田)

趣向も面白いのですが、何とんでもこの作品は完成度が高く、左上を91歩だけで収め、持駒銀2枚に逆算できたのはすばらしいと思います。収束も29銀1枚であっさり収めているのがいいと思います。

中山美保

適度のパズル性もあり好作

喜多真一

軽くて楽しい趣向詰

高木優嘉

芸術的な傑作

★ 第3回妖精賞中編部門受賞の山田嘉則作もそうでしたが合駒の発生しない図で後手玉1枚でいかに自殺するかがテーマ。その実現に向けて91歩を19まで趣向手順で運

んでくる。まさに完璧な構成と言えよう。
私もこういう作品を創ってみたいな。

【長編部門】

詰将棋パラダイス 1993年5月号

橋本哲 作 自殺詰 872手

(後に余詰が発見された)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀	香			王	歩	一
									二
		香		角		皇		歩	三
					香		皇	王	四
							歩		五
				馬	香				六
							歩		七
									八
									九

持駒 銀2

32 銀①同玉 42 角成② 21 玉 32 銀 22 玉
23 銀生 21 玉 (途中図1)

① 22 玉は、23 銀成 21 玉 12 歩成 同飛
同全 32 玉 (同角は 31 飛 22 玉 23 銀 同角
まで) 22 全 同玉 23 銀 21 玉 22 飛 11 玉
12 飛生 21 玉 32 飛成 11 玉 22 銀生 12 玉
23 龍 同角まで

② 同金は、同香成 22 玉 23 金 21 玉 12 歩成
同飛 同金 同玉 23 銀以下①と同じ

(途中図1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀	香			王	歩	一
					馬				二
		香			皇	銀		歩	三
				香		皇		王	四
							歩		五
				馬	香				六
							歩		七
									八
									九

持駒 なし

43 馬③ 32 桂 同銀生 22 玉 23 銀生 31 玉
53 馬 21 玉 54 馬 43 桂 同馬 31 玉 53 馬
21 玉 54 馬 43 桂 同馬 31 玉 53 馬 21 玉
54 馬 43 桂 同馬 31 玉 53 馬 21 玉 54 馬
31 玉 43 桂 42 玉 31 桂成 同玉 43 桂 42
玉 31 桂成 同玉 43 桂 42 玉 31 桂成 同玉
43 桂 42 玉 31 桂成 ④ 43 歩 同馬 31 玉
53 馬 21 玉 (途中図2)

③ 31 玉は、32 銀生 22 玉 12 歩成以下作意
順収束に入る

④ 同玉は、③ 31 玉の局面と同一。43 桂は、
同香成 31 玉 32 銀生 22 玉 33 杏 同玉 43
馬 22 玉 34 桂 同角 33 馬 同玉 23 銀成
同角まで

★攻方は途中図1より 43 馬、31 玉の形を作り
たい。受方は桂の中合をしてそうならないよ
う抵抗する。歩だと消去されやすいのだ。先手
は取った桂を巧みに消去していくと④の局面で
歩合せざるを得なくなります

(途中図2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀	香			王	歩	一
									二
		香		馬		皇	銀	歩	三
					香		皇	王	四
							歩		五
				馬	香				六
							歩		七
									八
									九

持駒 歩

『「54 馬 43 桂 同馬 31 玉 53 馬 21
玉」×4、54 馬 31 玉 「43 桂 42 玉
31 桂成 同玉」×3 43 桂 42 玉 31 桂
成 43 歩 同馬 31 玉 53 馬 21 玉』×15
(途中図3)

(途中図3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀	香			王	飛	一
									二
		香		馬	香	銀	歩		三
				香		王			四
						飛			五
			馬	香					六
							歩		七
									八
									九

持駒 歩16

「54馬 43桂 同馬 31玉 53馬 21玉」
 ×4 54馬 31玉 「43桂 42玉 31桂成
 同玉」×4 「32歩 21玉 31歩成 同玉」
 ×16 32銀生 22玉 12歩成Ⓞ同角 23銀生
 31玉 53馬 21玉 43馬 31玉 32銀生 22
 玉 33馬 同玉 43香成 34玉 36香 35歩
 23銀生 同角 まで 872手 (詰上図)

Ⓞ同飛は、合駒がない為詰み (この為の持駒消去) また同玉は、23銀 同角まで

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀	香				飛	一
									二
		香		杏	馬				三
					王	香	王		四
					香	飛			五
				香	香				六
							歩		七
									八
									九

持駒 なし

★全ての歩を使い切った為、31桂成の時の
 43歩合が出来なくなり 31同玉とせざるを得
 ない。そこで先手は邪魔な持駒の歩を消去して
 収束となります。

受賞理由 (菊田裕司)

実に巧妙な趣向。文句なし。

駒井信久

桂4枚が行ったり来たりする仕組みは実に巧妙。
 46手サイクルで1歩を獲得し、歩切れを得て
 初めて持駒消去が可能になるという全体の筋書
 きは、明快で楽しめる。

雲虚空

良くこのような複雑な機構を思いつくもの。

★当時の私も結構考えたが結局無解。当時の正
 解者は上記の2名でした。

【余詰】

本作にはのちに余詰が発見されています。
 詰将棋パラダイス1994年7月号の読者サロンに
 掲載されています。
 以下 Online Fairy Mate006 より

橋本孝治氏指摘

下はその途中図。作意通り進んで玉方が14枚目
 の歩を合駒したところです。

ここから作意は同馬なのですが、次の手順が
 あります。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀	香		王		飛	一
					王				二
		香		香	馬	銀	歩		三
				馬	香	王			四
						飛			五
				馬	香				六
							歩		七
									八
									九

持駒 歩13

途中図から

43香成 31玉 32銀生 22玉 33杏 同玉 43
 馬 22玉 23香 同角 同銀生 31玉 32銀生
 22玉 44角 33歩 21銀成 同飛 33馬 31玉
 53角成 42歩 同香成 同金 同馬右 22玉
 44馬 33香 同馬引 31玉 53馬 41玉 43香
 42香 52銀 31玉 42馬右 22玉 44馬 33桂

同馬引 31 玉 53 馬 42 桂 同馬（以下 2 枚の馬で合駒を全て取る。

最後の合駒を42馬右で取り、22玉となった局面から記述)

32金 11 玉 21 金 同玉 31 飛 22 玉 32 飛成 11 玉 31 龍 21 金 12 歩 同玉 22 金 同金 13 歩 同金 まで

いろいろ変化はありますが、2枚馬で合駒を根こそぎ取っていくという基本方針に沿って進めれば詰みます。歩を13枚取った局面からこの手順に入ったのは、上記の手順中28手目までのどこかで、歩以外の合駒を強要するためですが、歩を一枚も取っていない局面からでも工夫次第で自殺可能だろうと予想しています。

投稿募集中

ネットでのフェアリー詰将棋の投稿募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。投稿先は各々異なりますのでお間違えにないように。

10 月 15 日 (木)

Fairy of the Forest #21

課題：初形または詰上りが都玉の協力詰

投稿締切：2009年10月15日（木）

出題：2009年10月18日（WFP16号誌上）

解答締切：2009年11月15日

結果発表：2009年11月18日（WFP17号誌上）

「第31回神無一族の氾濫」

作品募集のお知らせ

「第31回神無一族の氾濫」へのゲスト参加を募ります。

テーマは「非標準駒数のフェアリー作品」。玉（王）以外の駒の数が通常よりも多い、あるいは逆に少ない作品を募集します。

また、使う駒の種類は通常通りとし、フェアリー駒は使わないものとします。

それ以外は自由にルールや条件を選んで構いませんが、駒数が標準と異なる意味が明確に分かる作品をお願いします。

1題は普通のばか詰（協力詰）を出題したいの

で、募集作品数は4題とします。

作品要件：「非標準駒数のフェアリー作品」

募集締切：2009年10月19日（月）

募集作品数：4（+α）

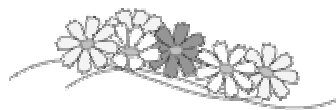
送り先：神無七郎

（janacek789@ybb.ne.jp）

上記宛先へE-mailでお送りください。

備考：1人何作でも投稿可

採否は10月26日までに通知



第1回フェアリー詰将棋

短編コンクール

～ 作品募集要項発表 ～

ルール・手数の設定にちょっと悩みました。

初回という事であるべく多くの方に創作・解答に参加して貰いたいので、協自系作品に多くなると困るし、かといって純粋協力詰だけとか5手以下なんてしちゃうとフェアリーの良さ（多様性）が発揮されない気がするし…。

結局今回は協力詰系の作品（7手以内）としてみました（一番中途半端？）。

あくまで試運転ですので、次回以降の開催方法をこの内容で縛るつもりはありません。その都度担当者の裁量で改善していくべきと思います。

また、第2回フェアリー短コンが開催されたら、僕も解答者として参加してみたいので、次期担当希望者も歓迎します。

★要項★

投稿締切：2009年12月6日（日）

出題開始：同12月20日（日） <WFP第18号掲載>

解答締切：2010年1月17日（日）

結果発表：同2月20日（土） <WFP第20号掲載>

ルール・手数：協力詰系<※注>の作品（7手以内）。

評価方法：ABCの3段階評価。A=3点、B=2点、C=1点、誤解=3点、無解=点数除外。

出品数：1人2作以内。

出題方法など：作者名は伏せた上で全局一斉出題。評価点の平均で作品の順位を決定する。不完全作は失格（自動最下位）。

作品審査：基本的に無審査としますが、fm検討環境がない方の作品検討には協力しません。

※注、今回のコンクールの「協力詰系」の定義
今回は、純粋協力詰か、または協力詰に何か条件を付加したルール（例：安南協力詰）を対

象とします。勿論受先もOKです。

協力自玉詰など受方玉を詰ますルールや、かしこ系、ステイルメイト系、最悪詰、悪魔詰などは不可です。とにかく「双方が協力して最短手数で受方玉を詰める」ルールにして下さい。

連続協力詰も可ですが、双方の手数の合計は7手以内とします（例：6+1手や4+2手は可、5+3手は不可）。

その他不明な点があれば遠慮なくお問い合わせを。投稿締め切りまで余裕がありますので、作図を焦る必要はありません。求、自信作！

（追記）

「第1回フェアリー短コンで5手2解の扱いは？」という質問を頂きました。

とりあえず今回は、作意が7手以下であれば2解でも出題可、但しその場合出題図1つに2作品含まれているとみなして、同じ人は2作目の投稿は出来ない、という運用で行こうと思っています。

他ではツインはOKですが1作まで、3解以上やトリプレットは不可、という感じで。

勿論この点でも、今回はこれでやってみるというだけの事で、次回以降の運営方法まで縛るつもりはありません。

小峰耕希 (jigsawbox@nifmail.jp)

お便りより

橋本孝治

WFP 第14号は解けない作品が多かったので、その感想などを。

【推理将棋】第1番 ミニベロ氏作 「焦点の成り」

公式記録としては解けたことになっていますが、これは「角取り」が「ヒモの付いていない角に対する角取り」に訂正される前の解答だったので、本当は解けていません。51地点への成りで両王手、という筋自体は分かったのですが、それが桂だとは意外でした。

【Fairy of the Forest #20】20-08 雲海氏作 協力詰 51手

なるほど。あらかじめ歩を稼いでおくのですね。行きがけの駄賃で「何かのついでに歩を稼

ぐ」筋しか考えていませんでした。
歩を稼いでから9段目まで降りてくる手順も難しいです。

【 Fairy of the Forest #20 】 20-09 雲海氏作
協力詰 53 手
こちらは詰上りの想定からそもそも間違っていました。
この形はちらっと考えなかったわけではないですが、発生させる歩が2枚ではなく3枚というのは完全に想像の上を行っていました。

【第25回詰将棋全国大会記念作】神無太郎作
覆面ばか詰 5手 5解
③～⑤3解はすぐに出てきたのですが、①②がなかなか出てきませんでした。
時間をちゃんと取れば解けたと思うので、もっと早く着手すべきだったと思います。
5解にあまり関連性や意味を感じないので、この形式での出題は正直言ってちょっと疑問です。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

9月20日(日)

詰将棋メモ 推理将棋第26回出題
* 推理将棋3題

10月3日(土)

Onsite Fairy Mate 151回出題
* 対面協力自玉詰 1題

10月15日(木)

第14回WFPフェアリー作品展

あとがき

先月、Urakabeさんの萬葉亭支店
(<http://urakabe.cocolog-nifty.com/manyou/>)
で紹介されたのが下記の作品。(勝手に紹介してすみません)

Urakabeさん作 ばか詰 25729手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		王		飛		龍				一
		全			科	科	香	馬	馬	二
					科		香	と	桂	三
		香	香	香			香			四
			銀	銀	銀	香	香	香		五
		香	王	歩		歩	歩	歩		六
					香					七
			歩		歩					八
		歩	歩							九

持駒 なし

並べるだけでも数時間かかる超大作です。ただ手順はこつさえ掴めばそんなに難しくはないので皆さんぜひ解いてみてください。

ちなみに私はKifu for Windowsで手順を入力してましたが、5000手で打ち止めとなり頓挫してしまいました。

たくほん

2009年 第15号

Web Fairy Paradise

非売品
平成二十一年九月号
平成二十一年九月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市
発行兼編集人 須川卓二
発行所 Web Fairy Paradise 編集部
問合先
須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp